

事業報告書

2020 年度の総括

2020 年度は、コロナ感染症拡大に伴う影響が大きく、本協議会も少なからず影響を受け、従来の活動ができない状況下にありましたが、逆境に臆することなく様々な方策を試みながら、従来にも増して効果的な活動ができましたことを報告させていただきます。

まず、本協議会は、会員との連携及び情報交換を密にし、会員をサポートする情報プラットフォーム的な役割を担うことが求められていますが、今年度は SNS の発信、HP のリニューアルをすることで、情報発信力の強化を図ってまいりました。特に、Twitter 及び Facebook 等の SNS を有効に活用しながら、会員のイベント情報等の配信を実施しました。今後は、会員に対する、双方向の情報の受発信、メルマガ等の積極的なサポート業務を推進してまいります。

本協議会が事務局機能を担う「ワン・ワールド・フェスティバル」は、コロナ禍により従来の開催が不可能となり、一時は開催が危ぶまれましたが、関係者の皆様のサポートにより Web で開催することができました。

開催内容も Web に特化したコンテンツを新たに構築し、Web で開催される利点を活かした開催内容となりました。今回新たなプログラムとして、国際交流・SDGs の取り組みをテーマに「動画コンテスト」、企業の SDGs の活動を広く広報し、企業間の交流を深める目的で「SDGs 交流ひろば」、高校生による SDGs トークセッション等を実行委員会が独自に企画することで実施いたしました。

同様に特別企画として、関西テレビ「報道ランナー」お天気キャスター片平敦氏には、地球温暖化による頻発する気象災害に備えろと題し、SDGs の取り組みの重要性について講演をいただきました。また、ベネシード代表による「平和について」と「国際人とは」の対談は、ますます多様化する国際協力及び交流を担う若者にエールを送るものとなりました。

以上のようなプログラムは、「Online Week」として特設サイトを立ち上げ、2 月 1 日(月)から 2 月 21 日(日)までの期間配信され、43,000 回数を超える視聴数を獲得することができました。

今後も引き続き継続するプログラムとして、動画コンテスト、SDGs 交流ひろば、高校生による SDGs トークセッションが考えられますが、2030 年の SDGs の目標達成に向け、高校生・大学生が積極的に活動できるプログラムの構築が特に重要となってきます。本協議会は、プラットフォーム的な役割を果たすことで、今後も様々なセクターとのコンセンサス及びコラボレーションを重ねながら、2030 年のアジェンダ達成のために活動を継続して参ります。

前年度に新たに立ち上げた多文化共生事業「こどもプラザ」は、年初よりコロナ感染症拡大に伴う非常事態宣言の発出により、一時運営中止の事態に陥りましたが、ZOOM を使用することで、こどもたちへの日本語習得のサポートを継続することができました。2 回目の非常事態宣言時には、前回の経験を活かし、ZOOM での開催に速やかに移行することで、こどもたちのサポートを継続しました。

現在はコロナ禍により外国からの労働者は少ない状況下にあります。労働力を外国に求める日本の社会構造そのものの問題でもあるため、将来的にも、外国にルーツのあるこどもたちの日本語習得のサポートは大変重要な役割を担っています。引き続きこの事業の充実を図り、こどもの日本語習得のサポート、母親の日本語習得のサポート及び日本での生活情報のプラットフォーム的な役割を担うことを目指します。

今年度のトピックスは、ワン・ワールド・フェスティバル「Online Week」の開催のために、「初めての試み」として、「クラウドファンディング」に挑戦したことではないでしょうか。多くの方々のご賛同を頂き、成立する

ことができました。今後、このような手段を活用しながら、柔軟な資金調達方法を採用することで、事業の内容を充実させ、SDGs の目標達成に向けて、様々なアクターとの交流を深め、活動を継続して参ります。

1. NGO／NPO 間の連携促進事業(会員向け事業)

会員数＝正会員 42 団体、賛助会員(団体)0 団体、賛助会員(個人)6 名
(2021 年 3 月 31 日現在)

＊団体名は本報告書末に一覧表を掲載

(1)会員サービスの充実

〔内 容〕 会員間の情報交換、経験の共有を図るとともに、会員それぞれが有する専門性や経験情報・人材を活かすように連携や協働の促進に努めた。

会員名簿の発行

発行部数 100 部

配布先 会員団体

(2)会員への情報提供と会員活動への広報協力

〔内 容〕 ① 会員への情報提供

- ・会員からの問い合わせについて、各種助成金情報や会員団体による主催事業情報、NPO 支援に関する情報発信をホームページにアップし、Web で配信しました。
- ・ワン・ワールド・フェスティバル Online Week の開催により、オンラインブースへ参加された会員が Web で自らの活動を配信され、多くの視聴者に好評であった。
- ・開催期間中は、イベントの特設サイト及び本協議会ホームページ共にアクセス数が急増した。

② ホームページ・SNS による情報発信

- ・情報発信方法として、ホームページ掲示板からイベント情報、ボランティア情報、求人情報、助成金公募などの情報を掲載しました。
- ・ホームページの掲載内容を、Facebook、Twitter から配信し、多くのフォロワーを獲得することが出来ました。



2. NGO／NPO と多分野の団体、他機関との連携促進事業

●第28回ワン・ワールド・フェスティバル オンラインウィーク

本協議会が事務局を担うこのイベントは、ここ数年の間、2日間にわたり北区民センター、扇町公園、

カンテレスクエアで開催されましたが、昨年の2月以降新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、開催中止の危機に瀕しましたが、実行委員会が主体となり、従来の開催の形を変えて WEB での開催となりました。

WEB での開催は初めてでしたが、実行委員会のメンバーの方々、行政等の関係者の方々、大学生、高校生の方々の積極的なご支援により、2月1日(月)～2月21日(日)までの21日間という長い期間の開催となりましたが、成功裏に閉幕することができました。

今回の新しい試みとして、イベントの特設サイトを立ち上げ、下記のようなプログラムを視聴者に届けることができました。特に、新しいプログラムとして、国際交流・SDGs の目標達成に向けた活動を取り上げた「動画コンテスト」、SDGs の目標達成に向けて積極的に活動している企業の活動状況を市民に向けて発信する「SDGs 交流ひろば」、全国の高校生が参加した「高校生による SDGs トークセッション」を立ち上げることができました。また高校生のトークセッションにはマレーシアからの参加者があり、WEB での開催は、従来型の地域限定の開催から、グローバルな広がりを実感させられるものでした。

また、新たな取り組みとして、イベントを積極的にサポートする力となったのが、クラウドファンディングの取組が挙げられます。長年続いた「ワン・ワールド・フェスティバル」の灯を消さないように、と多くの方々のご協力及びご支援を得て成立することができました。



【開催概要】

〔開催日〕 2021 年 2 月 1 日(月)～2 月 21 日(日)

＊①プレウィーク:2 月 1 日～2 月 5 日(オンラインブース、ワンフェスチャンネル、SDGs 交流ひろば、動画コンテスト応募作品、スポンサーチャンネルを先行配信)

＊②メインウィーク:2 月 6 日～2 月 21 日(すべてのコンテンツを配信)

〔場 所〕 ワン・ワールド・フェスティバル特設サイト

〔視聴者数〕 約 43,000 回数

〔参加団体〕 90 団体

〔プログラム数〕 119 プログラム(8 コンテンツ&119 プログラム)

〔実施方法〕 実行委員会形式

〔協力団体〕 関西テレビ放送(株)

〔共催団体〕 (一財)大阪市コミュニティ協会 北区支部協議会

〔協賛団体〕

(株)新井組、イワサ(株)、岩谷産業(株)、(学)エール学園、(一社)大阪青年会議所、大阪府生活協同組合連合会、音羽電機工業(株)、カンサイ建装工業(株)、近畿労働金庫、(株)クボタ、サラヤ(株)、(宗)真如苑、積水ハウス(株)、第一ゼミナール、大日本除虫菊(株)、中谷機工(株)、新居合同税理士事務所、(一財)日本国際協力センター、パナソニック(株)、阪急阪神ホールディング

グス(株)、(株)ベネシード、三木秀夫法律事務所、(株)リゾートライフ

〔運営協力〕

(公財)京都市国際交流協会、(株)インクリエイト、(株)ディーボックス、(株)大塚商会、
(株)関西テレビハッツ、(株)阪神インダストリアル＆テクノロジー(HIT パソコンスクール)

〔後援団体〕

外務省、総務省、文部科学省、経済産業省、環境省、大阪府、大阪市、堺市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府PTA協議会、大阪市PTA協議会、堺市PTA協議会、(公社)大阪府看護協会、大阪商工会議所、(公社)関西経済連合会、(一社)関西経済同友会、(公社)2025 年日本国際博覧会協会、(公財)ワールドマスタースゲーム 2021 関西組織委員会、日本労働組合総連合会大阪府連合会、大阪弁護士会、(一財)自治体国際化協会、(公財)ユネスコ・アジア文化センター、(公財)関西・大阪 21 世紀協会、関西SDGsプラットフォーム、(公財)大学コンソーシアム京都、(特活)大学コンソーシアム大阪、(特活)南大阪地域大学コンソーシアム、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(公財)大阪観光局、(公社)日本WHO協会、(一財)大阪教育文化振興財団 キッズプラザ大阪、大阪市北区商店会総連合会、天神橋筋商店会、天神橋筋三丁目商店街振興組合、ミナミまち育てネットワーク



〔準備活動〕

① 実行委員会の結成

＊2020年6月9日に第1回実行委員会を開催し、下記の団体で実行委員会を結成した。

＊構成団体:(独)国際協力機構関西センター、(独)国際交流基金関西国際センター、(公社)アジア協会アジア友の会、(公社)アムネスティ・インターナショナル日本・関西連絡会、(公財)オイスカ 関西支部、(一社)大阪青年会議所、(一社)南太平洋協会、(認活)大阪 NPO センター、(特活)AWPS学生スタッフチーム、(特活)関西国際交流団体協議会
(全 10 団体)

② 実行委員会の開催

＊実行委員会は6月から毎月開催し、イベント開催月の前月まで合計8回開催した。

2020年6月9日、7月14日、8月6日、9月29日、10月27日、11月19日、
12月11日、2021年1月14日

＊9月29日の実行委員会で[Web]での開催を決定した。

③ 出展団体の募集開始

＊オンラインブース、オンラインプログラム、ステージの参加団体の募集

2020年10月17日から開始

＊ワンフェス動画コンテストの募集 2020年10月30日から開始

*SDGs 交流ひろばの募集 2020年11月15日から開始

- ④ Web での開催に伴い、多くの団体の参加及び応募を呼び掛けるため、関西テレビ放送(株)と連携し、関西テレビ放送(株)の技術スタッフより参加者及び応募者への動画制作セミナーを下記のように実施した。

*セミナー1回目は、2020年11月3日関西テレビで実施された。「映像における企画の立て方」「伝えたいことを伝える撮影の仕方」の講習に35名が参加した。

*セミナー2回目は、2020年11月23日杭全の大西ビル3階の会議室で実施された。「共感を得るための動画編集」の講習には30名が参加した。

〔プログラム実施内容〕

- ① オンラインブース (29団体、29プログラム)

*NGO／NPO、ODA 機関、教育機関等29団体が参加し、独自に制作したビデオで活動状況及び貴重な情報を配信した。

- ② オンラインプログラム(15団体、20プログラム)

*国際協力や国際交流の大切さ、SDGs の目標達成に向けた活動をビデオに収録し、また社会問題を取り上げたシンポジウムを視聴者向けに配信した。

- ③ オンラインステージ(11団体、11プログラム)

*民族舞踊、沖縄民謡などのステージ、今宮高校ダンス部のダンスパフォーマンス、ミナミまち育てネットワークの学生音楽祭参加団体の演奏など視聴者に楽しんでいただけるプログラムを提供した。

- ④ オンラインキッチン(2団体、2プログラム)

*視聴者が作りたくなるレシピとして、今回は2か国(ボリビア料理、モンゴル料理)の料理動画が参加した。

- ⑤ ワンフェスチャンネル(3団体、12プログラム)

*このプログラムは、実行委員会が主催したもので、関西テレビ(報道ランナー)お天気キャスター片平敦氏の講演「頻発する気象災害に備える～「気候危機」時代に私たちができること～」、ワンワールドフェス広報大使松田陽子氏の歌とメッセージ、ベネシード代表の「平和について」「国際人とは」をテーマした対談、全国の高校生と海外の高校生を ZOOM でつないだSDGs の目標達成に向けてたセッション、出展者と実行委員会メンバーとの ZOOM 交流会の配信、イベントの見どころ案内、映像セミナーの配信、開会式、閉会式の配信、と盛りだくさんの内容となりました。

- ⑥ SDGs 交流ひろば(11団体、18プログラム)

*企業が積極的に取り組んでいるSDGsの活動を、「SDGs 交流ひろば」のサイトから広く配信することで、参加企業間の交流も含め、多種多様なアクターへの動機づけとなることが期待されます。

- ⑦ ワンフェス動画コンテスト(13グループ、13プログラム)

*動画コンテストには、学生の10作品、一般の3作品が参加しました。今回初めての試みでしたが、SDGs の理念や国際協力、国際交流への理解を深めるツールとしての役割を果たしています。

⑧ スポンサーチャンネル(6団体、14プログラム)

＊ワン・ワールド・フェスティバルを支援していただく企業のCMやCSR活動を配信するもの。

〔クラウドファンディング〕

初めてのWeb開催に伴う資金調達として「クラウドファンディング」に初挑戦いたしました。幸いにも多くの方々にご賛同をいただき、無事成立することができました。

〔募集期間〕2020年12月10日(木)10時～2021年1月21日(木)23時まで

〔支援総額〕1,276,000円

〔支援人数〕97人



3. 国際交流・国際協力・市民活動に関する情報収集と提供事業

(1) NGO／NPOに関する情報の収集・提供事業

〔目 的〕 国際交流・国際協力に関する多様な情報収集と提供を行う。

〔内 容〕 関係機関からの情報を整理し、ホームページ上で「新着情報」として取り上げ、タイムリーに配信することができました。また、PICK UP 情報として、イベントの情報を詳しく紹介するコーナーも設け、情報発信の充実を図りました。

(2)人材育成事業

〔目 的〕

同志社大学グローバルコミュニケーション学部のゼミの学生からの申し出により、外国にルーツのある子どもたちの現況を調査し、こどもたちの支援について、具体的な経験をする中で国際交流のあり方を学ぶインターンシップを実施した。

〔期 間〕 2020年12月2日～2021年1月6日

〔対 象〕 同志社大学 グローバルコミュニケーション学部 ゼミ生6名

〔内 容〕 こどもプラザのこどもたちと接し、日本語習得の支援、日本文化の紹介、宿題の補助等を実際に体験することで、こどもの居場所の確保、日本語習得の支援の難しさ、こどもたちの置かれた状況を肌で感じることで、こどもたちのサポートの重要性を理解することができた。

(3)講師派遣事業

同志社大学ゼミにてワン・ワールド・フェスティバルの開催に向け、SDGsの目標達成に向けた活動及び国際協力の在り方について新居事務局長及び井上(八)副理事長が講演を行い、その後ワン・ワールド・フェスティバルを更に良いフェスティバルにするため、ゼミ生がグループになって討論し、各グループよりアドバイスをもらうことができた。また、新しい試みである「動画コンテスト」にも、作品が6点寄せられた。

4. 開発教育・市民意識啓発と活動への参加促進事業

大学生、高校生及び市民に向けた SDGs の目標達成に向けた活動の一環として、セミナー及びセッションを主宰し、ワン・ワールド・フェスティバルの次世代のリーダーを育てる活動を行っている。特に、ボランティアのリーダーを育成するため、ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会のメンバーの一員としてボランティアを招待し、実行委員会での発言及び提案等の機会を設け、積極的に事業へ参加することで、社会的インパクトのある事業へと変革を行っているところである。また、動画コンテストを実施することで、学生・一般の方々の参加を促進するプログラムとして新たにスタートさせた。

5. NGO／NPO の基盤強化事業

(1) NGO 等提案型プログラム業務事業

関西地域に所在する国際協力 NGO 等を対象とした、国際協力をミッションとする NGO と積極的に SDGs の目標達成に向けて活動している企業とが、SDGs の取り組みを媒介として、互いに協力でき

る関係性を構築することで、共同して開発途上国の課題解決にあたるマッチングプログラムの企画申請を行ったが採用されなかった。

一方、積極的に SDGs の目標達成に向けて活動している企業を対象に、SDGs 交流ひろばを実施し、2030 年の目標達成に向けて、多種多様なアクターとの連携及び協働を促進する第一歩となった。

(2) 多文化共生事業

① こどもプラザ

〔目的〕

外国にルーツのあるこどもたちが直面している困難な問題、1) 日本語の習得と学校での授業についていけない問題、2) 日本文化に馴染めないこどもたちの居場所づくりの問題、を解決するための施設として「こどもプラザ」を開設し、困難に直面しているこどもたちの支援活動を行っています。また、同時に保護者(特に母親)の日本語の習得及び日常生活等の悩みのサポートを行っている。将来的には、大阪市内を中心に必要と思われる地域に拠点を立ち上げ、他団体とも連携を取りながら順次拡大してゆく予定である。

〔事業実施期間〕

令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日 毎週水曜日 17 時～19 時

〔実施回数及び参加人数〕

・こどもの日本語習得実施回数	47 回	延べ参加人数	258 人
・保護者の日本語習得実施回数	47 回	延べ参加人数	242 人

〔事業実施内容〕

※こどもと保護者とは別々の部屋で指導を行っている。

a)正しい日本語習得の支援

- ・元教員等のボランティアによる日本語で学ぶ学習の支援及び指導

b)宿題の指導(学校の宿題をサポートする。)

- ・算数、国語の指導経験者が指導。
- ・宿題を進める過程で日本語の習得も同時に指導。

c)こどもとの心のふれあいタイム(日本の習慣及び文化を教える目的で実施している。)

- ・毎回最初の 10 分～15 分間は、学校での活動及び出来事を中心に日本語で会話する時間を設ける。
- ・この会話の中で、学校での疎外感、いじめ等がないか用心深く会話を進めていくようにしている。

〔参考〕

(こどもたちの声)

- ・こどもプラザに来るのが楽しみ
- ・ともだちと一緒にゲームなどができるので楽しい。
- ・自分の得意なところをほめてくれるのでうれしい。等

(母親の声)

- ・自分に合った語学学校が見つからなかったが、こどもプラザはストレスなく学べる。
- ・こどもと一緒になので安心して日本語習得ができる。
- ・生活情報が少ないので、こどもプラザで情報提供をお願いしたい。等

※昨年に引き続き、2021 年 4 月～2022 年 3 月までに実施する大阪市の地域課題・社会課題の解決を目的とする公益的な事業として、「こどもプラザ」が大阪市市民活動推進助成事業の助成金の交付決定通知を受託した。



6. 調査研究・提言事業

国際交流・協力の連合体／中間支援組織としての経験や情報、及び NPO センターの視点を活かすとともに当該関係者の実情や声を施策に反映できるように努め、委員会等で得られた情報を事業に活用し、その情報を関係者にフィードバックするよう努めて参りました。

「外国人の住みやすい大阪」を考える関係機関等連絡会議(事務局＝大阪国際交流センター)が主催した外国人向けの相談会「1 日インフォメーションサービス」に、当協議会もメンバーとして参加した。この事業は、次年度も継続する予定。